今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

今月の特選句

2011年5月号

いかなごのしの字に縺れをりつの字　猿渡　仁

小魚の曲がり具合を文字で表現した句。判じ物で「こ」をふたつ文字、「い」を牛の角文字として「恋」を表現した時代がある。

想定外また想定外春愁　彦阪義久

「想定外」が乱用されている。「想定外」には、責任回避機能が付いているらしい。「他人事想定外と言う会見」、「政府電力無責任の想定内」。

津波などなかったやうに春の海　川島智子

台風一過と同じで、津波もひと暴れした後は嘘のように静かになる。「大暴れしたこと忘れ春の海　ひとの哀しみ知らんぷりして」。

涅槃会の一番乗りは寺の猫　ひがし愛

自分のとこが会場ですから、一番乗りというより顔を洗って参会者を出迎える。「にゃんとも今日は良い天気」などと猫なで声を出して。

花びらを本膳として酌み合へり　有冨洋二

本膳が「花びら」とは、粋というか、お洒落というか、貧乏というか…。酒さえあればという男が酔吟でもしているのですかね。

今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

咲き満つる頃や桜の散りはじめ　稲沢進一
・・・頂をきはめし噴水のごと

春の朝マグニチュードに始まれり　桜井宇久夫
・・・余震の予測できぬ悲しさ

いつの世も地震雷火事親爺　齋藤八兵衛
・・・地震の怖さぶつちぎりだよ

花の下に「花見自粛」の立看板　種谷良二
・・・背を向けて食ふ花見弁当

Ａ面は妻がつつくや桜鯛　飛田正勝
・・・お茶も亭主は二番煎じで

天気図の顔は真っ赤に花粉症　久我正明
・・・見ているだけで鼻がむずむず

佐保姫の佇ちし辺りの濡れゐたる　原田　曄
・・・立ち小便の古句を彷彿

胃カメラに意中探らる余寒かな　川高郷之助
・・・胃カメラの胃に重ねる意の字

田楽を焼くも食べるも名古屋弁　谷むつみ
・・・天むす味噌カツひつまぶしなど

藪椿開いた口とすぼんだ口　井口夏子
・・・笑うお花と不機嫌な花

猫の恋マグニチュード八から九　久松久子
・・・こちらは津波などは起きない

取り敢へず番となりし残り鴨　白井道義
・・・人にもあらむ行きずりの恋

帽飛ばすは春一番の得意技　宇佐美徹郎
・・・落ちたところが線路の上とは

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の滑稽句

【佳作】	春月や小舟となりて星掬ふ	青山桂一
	天上はズビズビズバの雲雀のみ	青山桂一
	開発はいつも桜木伐りてから	青山桂一
	心まで壊れてならぬ薄氷	秋月裕子
	新聞をテレビをみては泣く余寒	秋月裕子
【佳作】	被曝風とどく銀座の柳かな	秋月裕子
【佳作】	東北の漁港へ卯波そっと立つ	足立淑子
	被災地へ勇気与える鯉のぼり	足立淑子
	薫風が届けてくれる義援金	足立淑子
	おぼろなり漢字だらけの契約書	有冨洋二
	男ふたり行き場失ひ花の土手	有冨洋二
	飛花落花わが禿頭の髪飾り	有吉堅二
【佳作】	洞穴のやうな欠伸に春惜しむ	有吉堅二
	我輩といふ貌で蟇穴を出づ	有吉堅二
【佳作】	救急車花見スポットも駆け抜けて	安藤淑子
	腸よ腹よ裂かれ切られて春嵐	安藤淑子
	新卒の医師ビクビクと脈をとり	安藤淑子
	閻王のまぶた重たし花の昼	飯塚ひろし
【佳作】	石舞台中は空っぽ花菜風	飯塚ひろし
	山を売り寄付金となし入学す	飯塚ひろし
	鳥たちの宴の中の桜かな	井口夏子
	藪椿拾うと直ぐに捨ておかれ	井口夏子
【佳作】	亭主のシャツ娘のパンツで衣替え	池田亮二
	夢二描く愁わしの瞳は花粉症	池田亮二
	春蒔きの心配の種の芽を摘めよ	石川節子
	停電中営業します春満月	石川節子
【佳作】	春蚊出づ計画停電ご存じか	石川節子
【佳作】	古茶淹るるさて肩書は世帯主	伊地知寛
	家長の座武者人形に禅譲す	伊地知寛
	婿養子父祖伝来の柏餅	伊地知寛
	卒業の子の絵文字のメール弾みをり	伊藤和義
【佳作】	滑稽も嘘も封印四月馬鹿	伊藤和義
	通勤にライフジャケット四月馬鹿	伊藤和義
	就職の出来ず落第わざとして	伊藤浩睦
	仕舞はれぬ雛の祟りか四十歳	伊藤浩睦
	三月や委任状には判押さず	稲沢進一
	ふらここや前向きといふ繰り返し	稲沢進一
	春の海日本震撼大地震	井野ひろみ
	春うらら席譲られるバスの席	井野ひろみ
【佳作】	恋猫も独身主義か鳴きもせず	井野ひろみ
	春落葉なぜかわたしに蹤いてくる	今城夏枝
	春の雲九重連山引き連れて	今城夏枝
【佳作】	わが句碑とせむ爛漫の春山を	今城夏枝
	小水の轟に十五春休	宇井偉郎
【佳作】	四月馬鹿敬老枠で入選す	宇井偉郎
	乃公は出ず蒼生ばかり万愚節	宇井偉郎
	街頭で歌怒鳴りをる新社員	宇佐美徹郎
	万愚節オレオレ電話通じぬ日	宇佐美徹郎
	母の日や茶の間にありし實母散	氏家頼一
	春日中地震に倒れし不動尊	氏家頼一
【佳作】	見廻してこっそり拾ふ落し文	氏家頼一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

【佳作】	自叙伝のなべて美し四月馬鹿	越前春生
	亀鳴くや職を離れし惚けはじめ	越前春生
	法螺吹きの類が類呼ぶ万愚節	越前春生
	春の蚊や水屋の戸よりこんばんは	笠　政人
	しくじりと蝿取り蜘蛛や四股をふむ	笠　政人
【佳作】	片栗のイナバウアーの花の反り	笠　政人
	水仙花そつぽを向いて開きゐる	加藤澄子
【佳作】	天下一の花を見下ろし天守閣	加藤澄子
	母の忌の峠に立てば花の海	加藤澄子
	春燈のとどかぬ闇に歩み入る	加藤　賢
	妻の齢確かめてをり朧の夜	加藤　賢
【佳作】	厠への目覚めは三時春の闇	加藤　賢
	卒業と云ふ船出して漂へり	金澤　健
【佳作】	着席を師に許されず葱坊主	金澤　健
	唐土人河と云ひ張る瀬戸朧	金澤　健
	日脚伸ぶ猫背の影のくっきりと	川島智子
	春の地震津波原発三重苦	川島智子
	俳人に見詰められゐる蛙の子	川高郷之助
	桜餅食べたでしやうと膨る妻	川高郷之助
	招き猫その手その目は恋の猫	久我正明
	雛の箱開けて飛び出す生娘や	久我正明
	凭れあひ連みあふ枝山笑ふ	工藤泰子
	啓蟄や電池の足りぬ現状に	工藤泰子
【佳作】	揺れるのは心にあらず風光る	工藤泰子
【佳作】	ビール干す無防備となる喉仏	倉方　稔
	何時迄も汚れぬ作業衣新社員	倉方　稔
	マネキンの春服脱がせ買うてきし	倉方　稔
	春一番陸海空を丸呑みに	黒田忠一
【佳作】	避難などする気のなくて梅開く	黒田忠一
	オープン戦うぐひす嬢もためし啼き	小林英昭
	松山の蝌蚪「坊ちやん」を怒らせる	小林英昭
【佳作】	涅槃会のマイクで猫の呼びだされ	小林英昭
	さがしても地球にはない非常口	齋藤八兵衛
	もち肌を鳥肌にする夜地震	齋藤八兵衛
	ハイヒール捕えてしたり春の泥	酒井鹿洋
【佳作】	地球儀で世界一周目向ぼこ	酒井鹿洋
	春雨やここぞと誘う傘の中	酒井鹿洋
【佳作】	亀鳴くや反面教師の父親に	坂本牧子
	「滑稽」を座右の銘とし春の月	坂本牧子
	自粛して断酒宣言四月馬鹿	桜井宇久夫
	節電やひたすら歩く春一日	桜井宇久夫
	親に似て裸を好きなをんなの児	佐藤古城
【佳作】	蟹股に西瓜はさむが爺の芸	佐藤古城
	雪國に生まれ生涯ちんちくりん	佐藤古城
	四月バカ賢者ひだるし伊達寒し	佐藤古城
【佳作】	啓蟄の虫を突っつき兄いもと	佐藤古城
	ジーパンで裸足で畑にお大黒	佐藤古城
	おひなさま飾らず菓子の品定め	佐藤義子
【佳作】	ソーイング始めたもののいつ着るの	佐藤義子
	軒の下猫の追いかけ恋始め	佐藤義子
【佳作】	蟻や蚤描く涅槃図如来堂	佐野萬里子
	篭松明は遥か前方押出さる	佐野萬里子
	地獄絵を超えたる無惨大津波	佐野萬里子
	天井に風船這はし四畳半	猿渡　仁
	無礼者！さらば御免と猫の恋	猿渡　仁

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

【佳作】	四月馬鹿騙す相手もなく過ぎて	塩川雄三
	梅散つてすつからかんの空林	塩川雄三
	山笑ふ地上笑へぬこと多し	塩川雄三
【佳作】	よく喋る少し美人で屎葛	柴田真一
	泣き面の刺されし跡へまた蜂が	柴田真一
	草食のお釜が流行る春異変	柴田真一
【佳作】	付け睫口紅もとれ花疲れ	壽命秀次
	食はるるを知らず舌出す浅蜊かな	壽命秀次
	如意棒の予報士自在に杉花粉	壽命秀次
	諳んずる養生訓や春愁ふ	白井道義
	花粉症かも知れないと春の風邪	白井道義
【佳作】	何か喋り出すぞ蕨の格好	鈴木和枝
	芸達者な蕨だな風邪ひくなよ	鈴木和枝
	被災十五日目に梅が咲く嘘じやない	鈴木和枝
【佳作】	朝ごはん肉とサラダや蜆汁	鈴木哲也
	鳴きながら松の木止まる雀の子	鈴木哲也
	風もなく夜道うろうろ猫の恋	鈴木哲也
	口々にアブラカダブラ葱坊主	鈴木みのり
	大騒ぎして佐保姫の一気飲み	鈴木みのり
【佳作】	トイレットペーパーの端の三角四月馬鹿	鈴木みのり
【佳作】	耳二枚交互に映し初鏡	高須峰生
	年寄と呼ばれ納得花曇	高須峰生
	囀やよくよく聞けばねだり声	高田敏男
	三月や上司転勤盛り上がり	高田敏男
【佳作】	恋猫の背中撫でてる三味のばち	高田敏男
【佳作】	鼻の奥かき出してみる花粉症	高橋マキコ
	東北の地酒を選ぶ花見かな	高橋マキコ
	品薄の水ゆずり合ひ春うらら	高橋マキコ
	春の闇支援あぐねて紫煙濃し	高橋　都
	デビルともタマとも呼ばれ恋の猫	高橋　都
【佳作】	啓蟄や亭主少しも動かざる	高橋　都
	鯉幟空の真青な滝のぼる	高橋素子
【佳作】	庭の鶯オウムの真似をするなんて	高橋素子
	震災のウォークラリーや春の闇	高橋素子
【佳作】	旧かなや記憶術で入学する	田中　勇
	山笑ふ小説書きになる決意	田中　勇
	病院が馬乗りしたる春の丘	田中　勇
	プールの水ライフラインの綱となり	田中早苗
【佳作】	咲く前に便りのありし桜散る	田中早苗
	札を出す手品師の指四月馬鹿	田中早苗
	店員の一言を聞き花衣	谷むつみ
	梅園の興ざめしたる名札かな	谷むつみ
	電子音の語りに答ふ朧かな	種谷良二
	鶯に選ばれし我が猫の額	種谷良二
【佳作】	風神の袋全開春一番	田村米生
	引力にあらがひきれず椿落つ	田村米生
	恋猫の不眠不休の生欠伸	田村米生
	蟹の横這い見事真っ直ぐに生きてきて	土居忠行
	凶作や案山子なおさらご苦労さん	土居忠行
【佳作】	猪の昼寝のいびき聞く案山子	土居忠行
	母の味知らずに育つ子供の日	飛田正勝
	老いが押すさくらの下の車椅子	飛田正勝
	土性骨引抜かれたる鯉のぼり	永島董玉
	へらへらと見透く世辞にやや暑し	永島董玉
【佳作】	暗闇の黒き出目金灯されて	永島董玉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	四月馬鹿離婚届に判を押す	西をさむ
【佳作】	に成り損なって花の下	西をさむ
	謝りの礼を見習う新社員	西をさむ
	春炬燵もつか計画停電中	原田　曄
	だぶだぶの毛皮纏ひて春の猫	原田　曄
	野良猫の血統褒めて愛猫家	ひがし愛
	永き日やスピーチ誰も長過ぎる	ひがし愛
	ホワイトデー義理には義理の価格とす	彦阪義久
	白梅やあの女優さえ高齢者	彦阪義久
	被災地に先祖の迷ふ彼岸入	久松久子
	逃げ水の現実になる津波かな	久松久子
	亀鳴くや机上で設計されし原発	日根野聖子
【佳作】	ここに居るよここにも居るよとつくしんぼ	日根野聖子
	この空のどこより生れしや春の雲	日根野聖子
【佳作】	禿頭に頭蓋の起伏春一番	広瀬雅幸
	蛇穴を出て善人のやうな面	広瀬雅幸
	春雷や先の読めない寅次郎	広瀬雅幸
	流し雛迷ひまよひのダムの央	藤岡蒼樹
	後手に組み愚痴聞くや萬愚節	藤岡蒼樹
【佳作】	新学期母言の葉のからし味噌	藤岡蒼樹
	呑む他はなし春寒の独り言	藤原セツ子
【佳作】	落書は自分の名前卒業子	藤原セツ子
	梅の花くじけないでよねえわたし	藤原セツ子
	一日中嘘ついている四月馬鹿	古野セキヱ
【佳作】	断捨離の隙を狙って花見酒	古野セキヱ
	老いて尚休んでおれぬ前頭葉	古野セキヱ
	泣き笑ひする山々や震災地	前川敏夫
	掃除機の上に春塵独り者	前川敏夫
【佳作】	ほんとうに雪しか見へぬ雪見かな	前川敏夫
	おひるねもおやつもないんだ一年生	前　九疑
【佳作】	一年生になるのは僕だママじゃない	前　九疑
	耕運機の音に祝はれ入学す	前　九疑
	春の灯や一部始終を照らしをり	松尾軍治
	みわたせばお宝なしの春の部屋	松尾軍治
【佳作】	タメクチで応える孫と春休み	松尾軍治
	春寒や水気の絶へし我が老軀	丸山紘一
【佳作】	七難を序でに隠す春マスク	丸山紘一
	巣立つ日の吾娘の袴に見惚れけり	丸山紘一
【佳作】	ボス猿の泪目きっと花粉症	三木蒼生
	失恋といふ天罰や四月馬鹿	三木蒼生
	桜など眼中になき花見酒	三木蒼生
	まあだだよ子等散り隠る花の幹	三橋一笑
	草冠に玉と書いてものびるだね	三橋一笑
【佳作】	どんぐりこぼし急ぶれーきの三輪車	三橋一笑
【佳作】	祝い膳ふんぞり返る桜鯛	村上美和
	春の雨ワイパーかけよかかけまいか	村上美和
	雪洞の灯りの形に花筏	村上美和
	春一番吹けば飛びたる父であり	百千草
【佳作】	反省は猿にはできぬ山帰来	百千草
	鳥帰る父を頼むと母のこゑ	百千草

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	夫好み木の芽を寄せる椀の中	森岡香代子
	軽トラの荷台を飛び跳ね花の枝	森岡香代子
【佳作】	満開のミモザにむせる花粉症	森岡香代子
	願はくは花の下よりぽつくりと	森　要
【佳作】	今日だけは嘘をつかない馬鹿四月	森　要
	桜咲き桜さくらの桜かな	森　要
	跡取りの出来ずじまひの種物屋	守屋八郎
【佳作】	義理堅く今年も黄沙贈らるる	守屋八郎
	喉痛め和尚のうがひ入彼岸	守屋八郎
	徒党を組んだり分裂したり花筏	八木　健
	いちばんに花疲れして首の骨	八木　健
【佳作】	歳時記の季語にはなれず花泥棒	八木　健
【佳作】	万愚節水虫足の皮を食ふ	柳　紅生
	腹時計畑打つたびに鳴ってをり	柳　紅生
	喜寿の肺ゴム風船と押し合へる	柳　紅生
	避難所の慰むごとくいぬふぐり	柳澤京子
	放射能皆刈りとられ春野菜	柳澤京子
【佳作】	蕗のとう瓦礫の下よりほっこりと	柳澤京子
【佳作】	雪に問ふ津波と去りし人のつて	山下正純
	白壁の小路や雪の光舞ふ	山下正純
	段畑は航跡追ひて春眠す	山下正純
	ファールボール犬ふぐりまで飛んで来し	山本あかね
	花どきのあたたかなりし猫の腹	山本あかね
【佳作】	老いらくの恋もあるべし落椿	山本あかね
	棘のある木瓜の花もて妻娶る	山本けい子
【佳作】	舞ひ惑ひをり放射能の春の雪	山本けい子
	花冷えのあちこちに立ち募金箱	山本けい子
	蛤のとなりにチャーシュー幕の内	山本　賜
【佳作】	ばばは只ははに濁点花吹雪	山本　賜
	木瓜の花素通りをする猫のゐて	山本　賜
【佳作】	早乙女と呼ばれ媼の厚化粧	横山喜三郎
	口元の笑ふ鯉どち水温む	横山喜三郎
	「深刻書」としたため納付弥生尽	横山喜三郎
	鳥雲に入るや泪の津波来て	渡辺さだを
	西行は倖せ花の下で逝き	渡辺さだを
【佳作】	杉花粉マスクかければ皆美人	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。